

2003年

10月号

# Stage Up

生涯学習情報誌  
ステージ・アップ  
通巻 No. 124



「カトレア」版画：浪江年博

- もくじ**
- 2 特集 インタビュー 松井隆一さん
  - 4 生涯学習ア・ラ・カルト
  - 6 ぐるーぷBOX / いま地域で学校で
  - 7 まち・ひと・多面体 / 暮らし百景 歌壇
  - 8 イベントパーク

発行・(財)川崎市生涯学習振興事業団  
〈ホームページ〉 <http://www.kpal.or.jp>

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1  
TEL 044 (733) 5560(代) / FAX 044 (739) 0085  
TEL 044 (733) 5811 (ステージ・アップ直通) E-メール: [stage-up@kpal.or.jp](mailto:stage-up@kpal.or.jp)

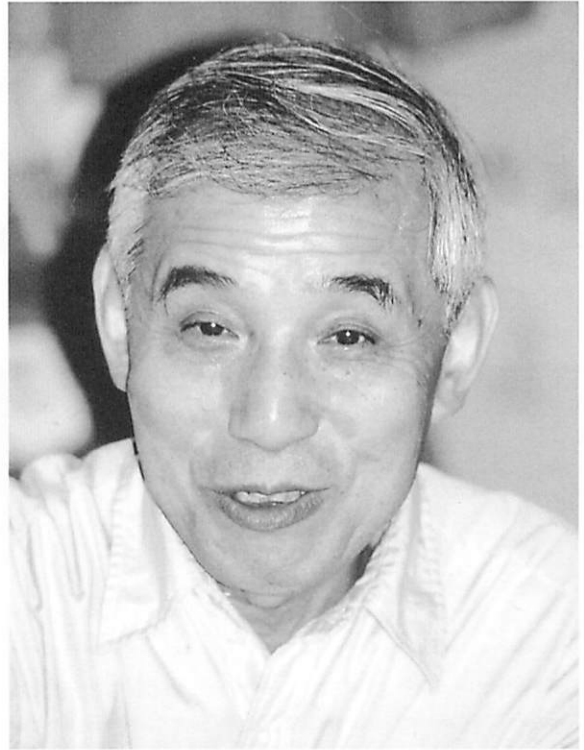
## 特集

## インタビュー

「平瀬川流域まちづくり協議会」事務局長

## 松井 隆一 さん

平瀬川は宮前区の水沢に源を発し、北東に蛇行し津田山台地を抜けて川崎の母なる川「多摩川」に注いでいます。その距離約7.6キロ。この平瀬川を中心に、流域の自然の再生と地域コミュニティの復活をめざして活動しているのが「平瀬川流域まちづくり協議会」（小泉正博会長、会員300人）です。松井隆一さんはその事務局長として、地域の学校やさまざまな団体と連携し活動の輪を広げてきました。1993年の発足時から、川の清掃や草刈、動植物の育成活動を行うとともに、流域の自治会をはじめ諸団体をつないで「平瀬川七夕サミット」や「平瀬川桜植樹会」も開催しています。この10年で川のゴミが減少し、水もきれいになり鮎の遡上が見られるようになったと言います。「川は歴史の遺産。自然と共に生きた心豊かな生活を現代に取り戻し美しいまちをつくりたい」と語る松井さんに活動の様子や抱負を伺いました。



# 水と緑あふれる美しいまちに

——松井さんは「平瀬川流域まちづくり協議会」事務局長として活躍ですが、会発足のきっかけは为什么呢。

松井 大きなきっかけは1991年に平瀬川の洪水対策として治水改修工事を行うという話が行政側からあり、地元で説明会が開かれたことです。その時、住民から「岸をコンクリートで固めないようにできないのか」「木を植えられないのか」「自然を残せないか」などの要望が出ました。しかし、行政側の答えは「それらの要望をすべて受け入れるのは難しい」というものでした。そのころ、川を中心にしたまちづくりの市民運動が全国各地で始まっていました。新聞やテレビでその話題を耳にするようになり、私たちも何かできるのではと思い、蔵敷商店会で講師を招いて勉強会をしました。その時の講師の高田勲先生（建築デザインコンサルタント）から「川崎は働く人のまちだから、体や頭を休めるためにも、住環境に自然があったほうがいい。農地を土地利用する時にも、良質な住宅を建てる時にも、インフラ（生活や経済の基盤）整備が大切。水や緑を大事にした方がいい」と言われました。そのことに我々も共感したので、多自然型の川づくりを平瀬川でしてみようということになったわけです。

そんな時、地域の仲間で作っていた文集の中に、小学校時代の同級生が「平瀬川を思う」という文を寄せていたのが目にとまりました。「最近の平瀬川は汚れている。自分が幼いころの川に戻りたい」と書かれていました。私と同じ思いの人が身近にいた、と勇気づけられました。

——協議会が発足して10年、どんな活動をしてきましたか。

松井 川流域の自然保護や保全が活動の柱ですが、河川改修に住民の意見を取り入れるための行政側との意見交換の場を設けたり、川の周囲に親水公園やコミュニティ広場を作る提案をしました。平瀬川のほとんどが治水対策としてコンクリート張りに改修されてきましたが、宮前区の蔵敷から水沢までの600メートルは、地元の提案を受け入れて自然を残した緑の多い川になっています。川沿いは地域の手入れによって散歩道が出来、安らぎの空間になりました。

96年に流域の8自治会と連携して第1回目の「平瀬川七夕サミット」を開催しました。この中で平瀬川の清掃とまちづくりシンポジウムを行いました。川の清掃にたくさんの人が協力してくれました。2001年に行った「七夕サミット」では清掃のほかに、イベントとして地域の太鼓グループによる演奏や地元の歌手、伊藤タキオさんのコンサートを開きました。この時は1500人の参加がありました。平瀬川沿いに桜の木を植えたり、「自然観察会」や「ガーデニングインストラクター講座」も開きました。ガーデニング講座では、地元の人が講師となり40時間の授業をしましたが、その後受講した人たちが自主的にグループを作って、川沿いに花を植える活動に発展しました。それから最近では、竹炭焼きを小学生に体験してもらいました。それがきっかけで、小学生が総合学習の中で、竹炭を使った川の浄化について実験した結果をまとめ発表しました。

—この10年で特に印象に残っていることはなんですか。

松井 協議会を作った当初、平瀬川的环境マップづくりをしたことです。当時、犬蔵小学校のPTA会長をしていたので、その時の校長に相談したところ、周辺の小学校にも声をかけようということになりました。そして6小学校の校長と社会科の先生が集まって、子どもたちも入れて現地の調査を行いました。写真やイラスト、説明文などを盛り込んで新聞紙大の環境マップを作りました。出来上がった時、マップを持って歩きながらクイズをする「ウォークラリー」をしました。この時300人の参加があり子どもたちの反応もよく、やってよかったと思っています。この作業を通して、学校との連携の基盤ができたと感じました。ここで育った子どもたちが大きくなって昔を振り返った時「子ども時代、地域でいろんなことをして楽しかった」と言われるふるさとでありたいと思います。

—今年の「平瀬川七ツサミット」の中で行われた「まちづくりフォーラム」では「地域ブランドを作ろう」という提案がされたようですが…。

川の清掃をする小学生たち



松井 地域で生産したものは地域で消費する「地産地消」が言われていますが、この地域は農産物がたくさん収穫されているのに、近くに住んでも知らない人が多い。「地元のものですよ」と言ってもうまく情報が伝わらないことがあるようです。地元のもの上手にプレゼンテーションするにはどうしたらいいかを考えなければならない。そこで、川にちなんだブランドを作って、地域から発信していたらどうだろうか。たとえば、平瀬川のほとりに40種類の桜が植えてあります。それを題材にして地元の人がデザインして、和菓子や洋菓子を作る。それから、桜の絵を入れた石鹸や竹炭を入れた「エコ石鹸」も作って売り出す。「平瀬川ブランド」として独自の商品を開発して、ここに住んでいる人がよそへ行く時に、お土産に持って行ってもらえばいいなと考えています。地域で農業をしている人たちや、さまざまな活動をしている人たちが「平瀬川ブランド」を利用することで、活動に広がりが出てグレードアップしていけば、という思いがあります。

協議会では「ブランド開発実行委員会」を作って情報発信しながらやっていこうと動き始めています。その一つが、川のイメージアップと活動の活性化を目的にした「平瀬川ブランド」のシンボルマークの募集です。宮前区在住の方を対象に声をかけていて11月ごろにシンボルマークを決定します。

—しっかりとした構想を持っているのですね。

松井 そんなことはありません。「最初に構想をしっかり持



地元の小学生が焼いた竹炭を川に入れ、水をきれいにします。

たなくちゃだめ」と言われますけれど、構想とか方針というのは「その事を達成するためには何が大事なのか」ということがわかっていれば、大まかなものでいいと思います。求める理想はつきつめると同じで、そこにたどりつく手段がいろいろあるということではないでしょうか。これまで、活動が先にあって必要に迫られて勉強してきました。「この分野について専門的なことがわからないから講師を招いて話を聞こう」とか「興味が湧いてきたからもっと深く学ぼう」という感じでした。川を通していろんな方に出会い学びました。その中で我々はどのようなプログラムを組んでいったらいいのか、自分たちが思い描くまちができていくのかを探ってきたのです。

—これからの抱負を聞かせてください。

松井 さまざまな団体と連携して、地域社会が活性化できたらと思っています。それから、地域に郷土資料博物館のようなものを作りたいですね。この周辺の川や地形の変遷がわかるような立体模型図を展示したり、「多摩川エコミュージアム」(多摩川を軸としたまちづくり)のサテライトにしたり、とアイデアはたくさんあります。文化を見直すきっかけとして地域の宝ものにスポットをあてるのもいいでしょう。

まちづくりは、みんなで飲食を共にしながら意見を交わす「ノミニケーション」が大切です。その中から出てきた意見を下地にして、地域に合ったものを作り上げていけばいい。活動への参加も「出来る時に出来る人がする」「その人の得意分野を生かす」ことを基本にすれば、多くの方が無理なくかかわれるし長続きするのです。地域の中で助け合い支え合っていく、主体的に動き、周りとのよい関係を保つことで心豊かに楽しく暮らすことが出来るのではないのでしょうか。

美しい景観のまちに美しい表情の人が住まい、集う…。そんなまちになったらいいですね。

### 松井 隆一 さん (まついりゅういち)

1942年川崎生まれ。食品小売業サンエスマート代表取締役。平瀬川流域まちづくり協議会事務局長。県立川崎工業高校卒業。民間企業に64年まで勤務。元犬蔵小学校PTA会長。元菅生青年同志会会長。宮前商店連合会副会長。宮前区づくりプラン推進委員会副理事長。NPO多摩川エコミュージアム理事。第1回市民自治創造かわさきフォーラム実行委員長。全日本スキー連盟公認指導員。ハンディキャップスキークラブ「べこ」指導員。宮前太鼓ミーティング実行委員会委員長。趣味はスキー、水泳、登山、和太鼓演奏。宮前区菅生在住。

●アカデミー●

かわさき市民アカデミー

10周年記念学園祭 イベント案内

記念シンポジウム

「国際秩序の変容と日本」(仮)

- ◆日時 11月15日(土) 13:30~15:30
- ◆会場 ホテル ザ・エルシー 4F 琥珀  
(JR武蔵小杉駅北口徒歩2分)

◆シンポジスト

- ・(財)日本総合研究所理事長 寺島 実郎
- ・朝日新聞論説委員 吉田 文彦
- ・明治学院大学教授 竹中 千春

学園祭公開講座

- ◆日時 11月16日(日)~17日(月)  
10:00~17:00
- ◆会場 川崎市生涯学習プラザほか
- ・アカデミーの受講生が企画した公開講座・研究発表を実施します。入場無料です。

フリーマーケット

- ◆日時 11月16日(日) 10:00~15:00
- ◆会場 川崎市生涯学習プラザ駐車場
- ◆募集店数 40店
- ◆参加資格 18歳以上で家庭内のリサイクル品を出品される方。
- ◆出店申し込み  
郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号出店品の内容を明記の上、はがきまたは電話、Faxにてお申し込みください。(10月18日必着)
- ◆結果通知 10月25日(土)までに当選者のみ通知します。

オークション

- ◆日時 11月16日(日) 15:00~16:30
- ◆会場 川崎市生涯学習プラザ201
- ◆出品者 五十嵐広三 元内閣官房長官 絵画(自筆)  
西田 秀穂 東北大学名誉教授 写真  
江藤 文夫 評論家 書籍

10周年記念事業に供するため、アカデミーの講師の方々に品物を提供していただきオークションを実施します。上記の他にも多くの方にご協力いただいています。

問い合わせ 10周年記念事業実行委員会事務局(アカデミー室内)  
☎044(733)6626/Fax 044(733)6697

生涯学習ア

●まなぶ●

はがきの文面作成講座 受講者募集

—WORDで作る年賀状—

WindowsXPのWORD2002を使って、はがきの文面作成・イラストの利用・印刷までを学習します。

- ★対象：Windows及びWORDの基本操作ができる方
- ★講座日程

開催日	講座 No.	申込締切日
10月31日(金)	はがき-1	10月10日(金)
11月13日(木)	はがき-2	10月23日(木)
11月25日(火)	はがき-3	11月4日(火)
12月3日(水)	はがき-4	11月12日(水)
12月8日(月)	はがき-5	11月17日(月)

- ★受講時間…10:00~15:00 (昼休憩1時間)
- ★受講料…4000円(テキスト代含む)。定員は各15人。
- ★会場…川崎市生涯学習プラザ研修室
- ★申し込み…はがき・Fax・電話で。第2希望までの講座No.、〒、住所、氏名(ふりがな)、TEL、Fax、年齢を明記。  
〒211-0064 中原区今井南町514-1生涯学習プラザ内  
学習推進室 パソコンセミナー係

問い合わせ ☎044(733)5894/Fax 044(739)0085

●たのしむ●

「屋内スポーツ教室」のご案内

川崎市生涯学習プラザでは、年間を通して下記の「屋内スポーツ教室」を開催しています。各教室の募集は、開講日の1ヶ月前から行いますので、日程の詳細等については、直接お問い合わせください。

- ◆エアロビクス教室(毎週月曜日 10:00~11:10)  
若いお母さん方が多く参加しています。週1回ですが、良い汗を流してストレス解消になると人気があります。
- ◆ヨガ教室(毎週火曜日 14:00~15:30)  
中高年の層に人気があります。継続して参加している人も多いようです。ゆったりした呼吸法と瞑想で心身ともにすっきりします。
- ◆気功・太極拳教室(毎週火曜日 10:00~11:30)  
「楊名時太極拳24式」を学んでいます。この太極拳は、体の力をゆるめ、ゆったりと円を描きながら連続して動くのが特徴です。「太極拳を始めてから風邪をひかなくなった」「腰痛がやわらいだ」という受講生の声が聞かれます。

問い合わせ 学習推進室 ☎044(733)5572

## ラ・カルト

## ●はぐくむ●

川崎市青少年の家のボランティア集団  
ユースワーカーズ倶楽部を紹介します

川崎市青少年の家では、青年ボランティア集団「川崎市青少年の家ユースワーカーズ倶楽部」(K.Y.W.C.)が活動しています。この倶楽部は平成10年に青年の継続的な社会参加活動の場として発足し、今年で6期目を迎え、高校生から社会人まで個性豊かな青年約30人が部員として登録し活動しています。

部員は「何かやってみたい」「ボランティア活動をしたい」「新しい出会いや体験をしたい」と、さまざまな思いで入部しています。自分らしさを大事にしながら互いを尊重し、協力し合い、時には意見をぶつけ合いながら活動しています。

主な活動内容は、青少年の家の各種事業のサポートの他、自主研修事業、子ども対象の主催事業、親睦交流事業などです。特に年1回開催している「青少年の家フェスタ」では、その企画・運営を担当し、活躍しています。また、区民祭などの地域イベントにも参加しています。

「川崎市青少年の家ユースワーカーズ倶楽部」(K.Y.W.C.)の活動に関心をお持ちの方は、お気軽にお問い合わせください。

問い合わせ 川崎市青少年の家 ☎044(888)3588

## ●さがす●

## 「講座・催し物情報」は学びのサポート

市内44カ所の公共施設に設置されている利用者端末「ふれあいネット」では、施設の利用予約だけでなく、「情報の提供」を検索することにより、各種の学習・生活情報を得ることができます。

なかでも「講座・催し物情報」や「電子掲示板」を検索すると、陶芸教室、パソコンセミナー、水彩画、エアロビクス、太極拳など、さまざまなジャンルの講座情報が引き出せます。秋は学習やスポーツを行うのに最適な季節です。自分に合った講座を探して学んでみてはいかがでしょうか。

「ふれあいネット(情報の提供)」の使い方は、そばに備え付けてあるガイドパネルに従って行えば簡単です。必要な情報を印刷することもできますのでご活用ください。

問い合わせ 学習情報室 ☎044(233)6250

## ハート &amp; ハーモニー Vol.36

## 健康つくりと快適な睡眠

「健康つくりのための睡眠指針－快適な睡眠のための七箇条」が2003年3月に厚生労働省から発表されました。休養の大きな柱である睡眠に関して、日常生活に実践できる内容が示され、参考として専門家に相談すべき睡眠障害についての解説もあります。

基本的な考え方をまとめると、①快適な睡眠を摂ることは重要である、②睡眠には大きな個人差がある、③快適な睡眠は工夫できる、となります。「こうでなければ」という固定観念を離れて、自分に合った睡眠のパターンを創造してみましょう。

快適な「睡眠の質」を決める要素はいくつかあります。睡眠の長さ、睡眠時間帯、睡眠の深さ、寝覚め感、熟睡感、睡眠中の夢、睡眠環境、入眠儀式、身体の疲れ具合、心理的ストレス、などです。誰でもいくつかは工夫の余地があると思います。

まず睡眠の長さや時間帯は「必要な長さを効率の良い時間帯に」と考えます。必要な睡眠は人によって6～9時間と幅があります。起床時刻を考えれば就寝時刻も計算できますが、午後10時から午前6時の間に摂る睡眠が、生理的に最も効率が良くとされています。起床・就寝時刻を家族や仕事にあわせていると無理が生じます。

睡眠の深さ、熟睡感、寝覚めには睡眠環境も大きく影響します。夜間にトイレに起きるために小さな明りをつけっ放しにすることも、眠りを浅くすることがあります。「ぐっすり寝た」と感じる深い眠りは1～2時間どこかで摂れば良いので、不快な音、光、振動がなく安心して眠れる環境を確保します。寝具や寝間着も大切な環境です。

夢の効果に定説はありませんが、心理ストレスを反映していたり、ストレス解消になっていたりするようで、夢の中には五感が総動員されています。寝覚めを悪くする嫌な夢が続く場合は、起きている間のストレス対策が必要かも知れません。

寝つきが悪いときには入眠導入を工夫します。アルコールは睡眠を浅く短くして、結果的に睡眠の質を悪くします。短期間であれば安全な入眠導入剤を処方する方が効果的です。寝床に入って眠たくなるのを待つのではなく、眠くなってから寝床に入る方が良い条件反射になるようです。

睡眠不足は日中の眠気の強さで判断します。眠気は無理に我慢せず、短時間の昼寝が必要です。可能なら午前中に、遅くとも午後3時位までに20～30分でさとりフレッシュしましょう。

(スポーツドクター 野田 晴彦)

## ぐるーぷBOX

## 生田緑地の動植物を市民に紹介

## 「かわさき自然調査団」

川崎市西部、多摩丘陵北東の端に広さ54ヘクタールの生田緑地があります。ここは自然の生態系が観察できる公園で園内には自然系の登録博物館である川崎市青少年科学館があります。

「かわさき自然調査団」(三島次郎団長、会員90人)は、1983年に科学館の呼びかけで発足したボランティア団体で、タンポポの調査が活動の始まりです。以降20年にわたり、植物班、昆虫班、野鳥班、地学班などに分かれて、それぞれ月4・5回調査活動をしています。これまでの調査は、A4判の報告書5冊にまとめ刊行しており、自然の移り変わりをみる貴重な資料となっています。また、毎週日曜には「自然観察会」を開催し、緑地内の四季折々の動植物を市民に紹介しています。

7月中旬に行われた「自然観察会(昆虫)」に同行しました。この日は、昆虫班のメンバー6人が家族連れなど20人を案内しました。メインガイドの川田一之さんは、クワガタの新種を発見した方で、昆虫全般に造詣が深い方です。「オオスカシバは蛾の仲間です。クチナシの花を好みます」と話しながら、

ら、参加者を昆虫がいそうな場所へ導いていきます。他のメンバーも大型捕虫網でとった虫に触れさせ特徴を解説したり、質問に答えたりしています。参加者は一つひとつうなずきながら聞き入っています。持ってきた図鑑と実物を照らし合わせて歓声をあげている子どももいます。センチコガネ、アカスジカメムシ、イラガ、アゲハモドキの幼虫など、2時間で30種ほどの虫に出会い、自然の豊かさを実感しました。

昆虫班の班長岩田芳美さんは「調査団の仲間の話が楽しく、新たに虫に出合った喜びは格別です。環境の指標としても大変興味があります」と話しておりました。

問い合わせ ☎ 044(922)4731 川崎市青少年科学館内



## いま地域で学校で

## ひびきあう学校・地域

## 心をつなぐ全校音楽集会 — 平間小学校

平間小学校(近藤好美校長、児童数415人)は、南武線平間駅を降りて商店街を通り抜けた所にあります。同校では、10年前に行われた創立50周年をきっかけに「音楽集会」が生まれ、ずっと続いています。この集会では、司会進行、指揮、伴奏を子どもたちが担います。

7月上旬、同校の「音楽集会」に伺いました。『歌声はいつの日も心をつなぐよ。みんなの心をひとつにするのさ…』



という歌声が会場の体育館から流れてきます。ギャラリーはつめかけた保護者と地域の方でいっぱいでした。

司会者のリードで、テーマ「つたえようよろこび 広がる歌声のわ」をみんなで呼びかけました。その後「明日に向かって」を歌います。高学年と低学年の声が溶け合い美しいハーモニーが響いています。そして低学年・中学年の歌が続き、お互いに聴き合っています。高学年の歌「時越えた旅立ち」は、会場全体を包み聴く人みんなの心にしみいる歌声でした。

歌い終わった高学年の子どもたちは「1年の時から音楽集会が楽しみだった。自分たちも6年生のようにきれいに歌えるようになりたいと思っていた」「聴いている人が感動してたくさん拍手してくれたのがうれしい」「何度も練習しているうちに、まとまりが出てきた。歌っていいなと思うようになった」と感想を述べています。孫の歌を聴きにきたという方は「子どもたちが一生懸命歌っている姿を見ると元気が出るので、毎年来ています」。元PTA副会長の花田三津子さんは「子どもたちの歌声を聴いて感動し自分たちもやってみようと、PTAコーラスグループを作りました」。

近藤校長は「子どもたちは、近くの特別養護老人ホームひらまの里に行って歌を聴いてもらったり、中原区の福祉祭りで手話を入れて歌ったりと、学校外でも自主的に音楽を通して交流するようになりました」と語っています。

まち・ひと・多面体

映画の音声ガイドを作成する

「朗読ボランティアさんざし」

今年で9回目を迎える「しんゆり映画祭」(しんゆり映画祭実行委員会主催)は毎年、市民スタッフが運営し上映会などを行っています。この映画祭には目や耳が不自由な人が映画を楽しめる「バリアフリーシアター」も設置されています。

今回は「バリアフリーシアター」の上映作品に音声ガイド(目が不自由な人のために情景描写や登場人物の動きを説明する)をつける作業をしている「朗読ボランティアさんざし」(武村桂子代表、会員80人)の有志の活動を紹介します。

この発端は7年前。武村さんは映画が好きで失明してからも映画館に足を運んでいましたが、セリフを聞いているだけでは理解できないことが多々あったそうです。「大阪の映画館で音声ガイドをつけて上映している」という情報を耳にし、「しんゆり映画祭で音声ガイドを」と提案しました。これがきっかけで、歌舞伎のイヤホンガイドのようなシステムを取り入れ、97年に『うなぎ』を音声ガイドつきで上映しました。

8月初旬、音声ガイド作成中のメンバーを訪ねました。今年の担当作品は『刑務所の中 DOING TIME』。各人が自宅ビデオを見ながら作ってきた台本を持ち寄り、場面ごとに



すりあわせていました。「セリフとセリフの間が数秒しかないから、そこは端的な言葉にしないと…」『「ペットボトルの口に銃口をあてがう』では切迫感がないから表現を変えたほうがいい』という具合に、シーンの雰囲気やふさわしい言葉を丹念に選んでいました。90分作品の音声台本完成まで3日ばかりの作業だからこそ、達成感があるといいます。これまでに手がけた作品は『HANA-BI』『ラヂオの時間』『鉄道員』『ナビィの恋』など11作品にのぼります。

武村さんは「何のノウハウもないところから手探りで始めてきました。『30年ぶりに映画を楽しんだ』『2時間かけて茨城から来た』という声に励まされてここまでやってこられたような気がします」と話しておりました。

くらし百景

中原短歌会

歌壇

らい病を得難き体験と生きて来し君を思えば人を超えたり  
らい病の君の歌集を読み終えて梅の若葉のゆらぎ見つむる

磯崎 か代

葉のいろも花もみどりの春蘭の木の下かげにひそと息づく  
空からの便りのようにひとひらの桜紅葉が肩に触れくる

斎藤 文子

めぐりきし師走の行事こなし来て一人歩みぬ雑踏の中  
事多き今年もすでに年の瀬を迎えて願うつつましき平和

佐々木寿美恵

モネの絵の描かれし一枚のカレンダー野の道を行くひとりの少女  
少年はつと立ち上がりものも言わず吾に席をゆずりくれたり

下田 良子

きさらぎの風吹きくれば受け流し柳の枝先や色づきぬ  
春雷の去りて明るき土手の辺にもぐらの堀りし黒土光る

鈴木 広信

降り立ちて汗ぬぐいつつ佇めば風わずかありメトロのホーム  
初夏の陽に樹林の若葉萌えいでて天衣無縫の喜びにいる

松原 佳江

念入りの化粧している若き女性珍らしくなき車内の光景  
気兼ねなく優先席に座りをり背中に午後の陽を受けながら

柳内ヒサ子

寒椿の紅の花びら冬枯れの庭をいろどり鮮やかに咲く  
散りそめし花びら小さな手に集め川に流して遊ぶ園児等

山本喜代子

※中原短歌会は、昭和四十一年に中原の文化推進のために発足し、現在三十七年続く最も古い短歌会です。指導は「現代歌人協会理事」水野昌雄先生です。毎月第二火曜日午後一時より川崎市総合自治会館で勉強しております。大変和やかな会です。お気軽に見学ください。 ☎〇四四(七六六)〇三四四 松原まで

## 情報コーナー イベントパーク 講座・コンサート他

### ●第9回KAWASAKIしんゆり映画祭

10月10日(金)～13日(祝)まで。会場はワーナー・マイカル・シネマズ新百合ヶ丘と新百合21ホール。上映作品は▽アマデウス ディレクターズカット▽男と女▽蒲田行進曲▽猟奇な彼女▽刑務所の中▽裸足の1500マイル▽ダンシング・ヒーローなど25作品。映画監督や俳優のトークあり。前売り券は700円～1300円、チケットびあ他で販売中。タイムスケジュールなどの詳細は☎(953)7652の映画祭実行委員会事務局。

### ●映画評論家・佐藤忠男と観る「水俣―患者さんとその世界」

10月25日(土)13時～17時。土本典昭監督作品の上映と解説。会場は新百合ヶ丘駅北口の日本映画学校4階大教室。参加費1000円。☎☎(244)7610川崎地方自治研究センター内「水俣・川崎展」市民委員会事務局。

### ●川崎市民プラザ映画劇場

10月25日(土)14時。「戦場のピアニスト」を上映。無料。先着500人。☎☎(888)3131。

### ●多文化フェスタみぞのくち2003

10月18日(土)11時～15時半。雨天の時は19日。会場は溝ノ口駅前のノクティ2屋上。音楽や踊りの発表、屋台、物品販売、リサイクルバザーなど。☎☎(814)7603の高津市民館。

### ●第19回川崎市退職教職員作品展

10月14日(火)～19日(日)は短歌・俳句・生花▽10月21日(火)～26日(日)は工芸・編物▽10月28日(火)～11月2日(日)は写真▽11月4日(火)～9日(日)は書道・園芸▽11月11日(火)～11月16日(日)は絵画・彫刻。会場は会館とどろき。時間は10時～16時半。無料。☎☎(733)3333。

### ●ミニ画廊スナック琴①写真展②木版展

①は10月18日(土)まできらく会の作品。②10月18日(土)～11月1日(土)は岡部信之の作品。場所は幸区鹿島田。展示無料。☎☎(544)0507。

### ●浮世絵展

10月6日(月)～25日(土)「歌川國芳 木曾街道揃」。川崎区の砂子の里資料館。無料。10時開館。日・祝日休館。☎☎(222)0310。

### ●中村正義「舞妓」展

11月30日(日)まで。麻生区細山の中村正義美術館。1967年制作「舞」をはじめ、「舞妓」のデッサンを展示。一般500円、大高生300円、小中生200円。開館日は金～日と祝日。11時開館。☎☎(953)4936。

### ●ランチタイムコンサート～マンドリンとピアノ

10月15日(水)12時15分開演、市役所第3庁舎ロビー。出演は青山忠(マンドリン)、武藤理恵(ピアノ)。曲目は「ウイーン我が夢のまち」「タイスの瞑想曲」他。無料。☎☎(210)3600の川崎市文化財団。

### ●和光大学レクチャー・コンサート～アジアを聴きながら

10月11日(土)14時から、場所は和光大学J-401教室。多民族国家ネパールの芸能を舞踊家岡本有子さんが紹介。受講料500円(高校生以下は無料)。先着300人。☎10月3日(金)までに

はがきまたはFaxで。住所、氏名、☎、「レクチャーコンサート希望」と記し〒195-8585町田市金井町2160同大学総務課大学開放係へ。☎(988)1433。Fax(989)2241。

### ●市民健康セミナー「乳癌の早期発見と治療について」

10月25日(土)14時から。会場は川崎市中小企業・婦人会館。講師は橋詰倫太郎・聖マリアンナ医科大学東横病院外科医長。講演後は質問・相談に応じる。看護・処置・薬・福祉の各相談コーナーあり。無料。先着150人。当日直接。☎☎(722)2121内線522の同病院総務課。

### ●井田病院ボランティア養成講座

10月29日(木)～30日(木)、10時～16時。会場は井田病院かわさき総合ケアセンター。対象は井田病院でのボランティア活動を希望する方30人。無料。☎10月15日(木)までに住所、氏名、☎、年齢、職業、受講の動機、希望する活動分野(介護・案内・園芸・図書・未定等)をはがきに記し〒211-0035中原区井田2-27-1井田病院内市民交流委員会。☎☎(766)2188。

### ●平まなびあいグループAndante講座

「かかわる・はぐくむ・むすびあう」をテーマに講座を開催。場所は宮前区の平こども文化センター。時間は10時～12時。▽10月10日(金)は環境活動家の安部芳裕さんの講演「地域通貨を体験しよう」▽10月24日(金)は世田谷ボランティア協会の天野秀昭さん「子どもはおとなの育ての親」▽10月31日(金)はメディアジャーナリストの七海陽さん「ゲームは子どもの敵?」。各1000円。3歳以上の保育あり。☎☎・Fax(865)8056の堀内さん。

### ●手話基礎講座～聴覚障害者を理解する

10月3日～11月7日の毎金曜10時から、全6回。場所は麻生区細山の川崎授産学園。対象は手話を初めて学ぶ方30人。無料(ただしテキスト代850円)。希望の方は電話で問い合わせを。☎☎(954)5011。

### ●玉川大学公開講座

10月開講の「自然の樹木を身近なものに」「生き物ウォッチング 秋から冬」「季節を楽しむフラワーデザイン」「コンピュータ・ミュージック入門」「文学に描かれたパリ」ほか13講座の受講生を募集。詳細は☎042(739)8895の同大学継続学習センター。

### ●南身館フェスティバル

11月1日(土)2日(日)10時～15時。南部身体障害者福祉会館。バザー、福祉作業所の製品の即売、模擬店。☎☎(244)3971。

### ●川崎市民プラザ囲碁大会

11月3日(祝)9時開会。対象は市内在住・在勤・在学の方200人、抽選。参加費は大人1000円、中学生以下500円。クラス区分(棋力)は▽A…5段以上▽B…3段～4段▽C…初段～2段▽D…1級～3級▽E…4級以下。☎10月17日(金)必着で往復はがきに住所、氏名、年齢、☎、棋力別を記し〒213-0014高津区新作1-19-1市民プラザ囲碁大会係。☎☎(888)3131。